

令和7年度版

生活支援体制整備事業

取組事例集



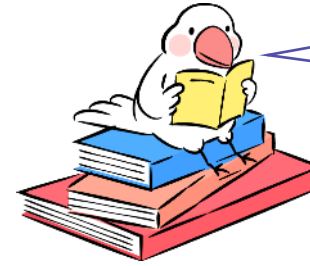
はじめに

本県において、市町村での生活支援サービス提供の体制づくりを推進するため、“生活支援体制整備事業”の取組事例集を作成しました。

取組の経緯や行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割も可視化していますので、今後の取組にぜひご活用ください！



目次



令和7年度版から掲載の新事例
には **NEW** がついています。

1	はじめに	1
2	目次	2～3
3	取組事例	
01	あさがお、ひまわり、かすみ草（鹿児島市）	4
NEW 02	上原生活応援隊（鹿児島市）	5
03	桜五 ささえたい（鹿児島市）	6
04	支えあい活動団体 宮たすけ隊（鹿児島市）	7
05	地域の助け愛隊（わがえへのたすけあいたい）（鹿児島市）	8
06	東部地区協議会（支えあい事業）（鹿児島市）	9
07	まごころふあーむ（鹿児島市）	10
08	みんなサポかもいけ（鹿児島市）	11
09	恵の会（鹿児島市）	12
NEW 10	吉野地域支えあい座談会による 「すまいるドライバー養成セミナー」（鹿児島市）	13
11	「ちょこっと世話やき隊」による地域支援活動（阿久根市）	14
NEW 12	大川内地区コミュニティ協議会 「てげてげふれあい助け隊」（出水市）	15
13	「大川内地区ドライブサロン買い物バス」で買い物支援（出水市）	16
14	おじさんたちのうんまカレー食堂（出水市）	17
15	「米ノ津東地区コミュニティ協議会スマイル体操教室」で介護予防（出水市）	18
16	男性限定サロン「男ん衆で楽しも会」（出水市）	19

17	「仮屋おたすけ会」による生活支援（指宿市）	20
18	「生活お役立ち情報 食の宅配サービス」 作成と買物支援による活用（指宿市）	21
19	西之表市高齢者支援協議会（西之表市）	22
NEW 20	可愛地区城峯自治会「地域の事は自分の事」 ～未来を見据えた自治会独自のゴミ出し支援～（薩摩川内市）	23
21	喜入自治会 見守り隊（薩摩川内市）	24
22	田崎自治会「見守り会議／住民支え合いマップ」（薩摩川内市）	25
23	誰もが活躍できる地域（薩摩川内市亀山地区小倉自治会）（薩摩川内市）	26
NEW 24	「地域の中でつながり、支え合う斧刈」 （斧刈地区コミュニティ協議会）（薩摩川内市）	27

- 25 地域のヒーロー（祁答院町藺牟田地区 湯之元自治会）（薩摩川内市）・・・28
- 26 地域の未来のため、私たちがはじめたこと（上甕 中野自治会）（薩摩川内市）・・・29
-  27 手打地区 麓自治会「ふもとサロン」（薩摩川内市）・・・30
- 28 本俣自治会のささえ愛（住民主体の助け合い）（薩摩川内市）・・・31
- 29 野菜づくりグループ「青葉会」（薩摩川内市）・・・32
- 30 湯田地区～誰もが気軽に集まることのできる場～（湯田地区コミュニティ協議会）（薩摩川内市）・・・33
- 31 陽成地区（上大迫自治会）（薩摩川内市）・・・34
- 32 土橋地区公民館 買い物ツアー（日置市）・・・35
-  33 「楽々買い物サポート」（日置市）・・・36
- 34 ほっと♡サービス（曾於市）・・・37
- 35 三郷ドリーム♪ほっとサービス（霧島市）・・・38
- 36 移動販売車「ぐりんぐりん号」による買い物支援（いちき串木野市）・・・39
- 37 「困りごと支え隊」「かせとも」による生活支援（いちき串木野市）・・・40
-  38 だんだん馬渡お助け隊（南九州市）・・・41
- 39 西町ささえあい隊（さつま町）・・・42
- 40 よりあい処「幸」（さつま町）・・・43
-  41 高齢者お出かけサポート事業『でかけ隊』による買い物支援（大崎町）・・・44
-  42 南大隅町あったか・すみっこサービス（南大隅町）・・・45
- 43 「中種子町社会福祉協議会」による買い物支援（中種子町）・・・46
- 44 星原校区協議体「たすけ愛体」の活動について（中種子町）・・・47
-  45 「ほほえみクラブ」のお買い物ツアー（屋久島町松峯区）（屋久島町）・・・48
-  46 屋久島町インフォーマルサービス一覧「高齢者のくらしを支えるガイドブック」作成（屋久島町）・・・49
- 47 幾里はまゆう（龍郷町）・・・50

- 生活支援
- 見守り
- 協議体
- 買物支援
- 配達
- その他
- 移動支援
- 居場所づくり

01 あさがお、ひまわり、かすみ草

鹿児島市
すこやか長寿部 長寿あんしん課

地域の概要



市街地周辺に多くの住宅団地が開発されたが、子世代の転出などによって人口減少や高齢化が顕著となっており、店舗等の減少やバス便の減少など、様々な地域課題が生じている。市総人口も減少傾向。高齢化率29.3%（R7時点）。

取組のきっかけ

「住み慣れた地域で安心して老後をくらしたい」、「ちょっとした手助けがあれば自立した生活ができるのに」等1986年に組合員の声から始まった助け合い、支え合いの活動。

取組の目的

- 会員同士の心のふれあいを大切に、おたがいを尊重し、思いやりの態度を忘れないように心がける
- 活動会員は「資格がなくてもできることを」「できるときに」「すこしでもお役に立てれば」という気持ちで活動
- 自立を妨げることがないように気を付け、援助希望会員ができないこと、困っていることを手助けする

これまでの経緯

年・月	出来事
昭和61年	生活協同組合コープかごしまの15周年記念のひとつとして支えあい活動団体が発足し、助け合いの活動が始まる
平成28年	市の「生活支援支え手育成モデル事業」に申請
平成31年	活動会員4名がみんサポ応援講座（支えあい活動従事者研修会）を受講。
平成31年	鹿児島市支えあい活動補助金の申請を行う
	活動会員のサポートとして、勉強会（月1回）、交流会（年2～3回）を実施
	また、定期的に活動会員登録説明会を開催し、活動会員を利用人数の倍の人数になることを
	目標として日々活動している

活動の概要

- ◆ **活動内容**： 調理、掃除、ごみ出し、洗濯、買い物、庭の手入れ、外出付添、衣類整理
- ◆ **活動範囲**： あさがお→市内北部地域、ひまわり→市内中部地域、かすみ草→市内南部地域
- ◆ **利用料**： 700円/1時間（年会費：1,000円）
- ◆ **対象者**： 会員
- ◆ **構成員**： あさがお 45名、ひまわり 37名、かすみ草 41名（R6年度）
- ◆ **利用人数**： あさがお 31名、ひまわり 37名、かすみ草 32名（R6年度）
- ◆ **活動に関わった人・団体**
 - コープくらし助け合いの事務局と連携・協働（利用調整等事務の一部委託）
 - 活動会員のサポートとして、活動事例や介護保険、傾聴、認知症等を学んだり、交流する場として年4回の学習交流会を開催

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報（HP等に事業内容掲載）
- 担い手育成
（支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 利用者の言葉が励みになる。
特に活動員は直接的に感謝を受け取れるので、活力になる
- 利用者の方に笑顔が増えるなど変化を感じることができる

〔課題〕

- 活動の担い手を増やすこと
- 活動時間外の活動依頼もあり、活動員が日程を合わせる場合があること

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

02 上原生活応援隊

鹿児島市
すこやか長寿部 長寿あんしん課



地域の概要



小山田町
人口 1,998人
65歳以上の人口 1,072人
高齢化率 53.7%
※令和7年4月時点
天文館から車で30分12km
国道3号線が通っているので、車の通行多く活気があります。



取組のきっかけ

水道検針担当として各家庭のメーター検針をする中で、高齢者からエアコンがつかない、水道蛇口の水が止まらない等相談があった。また庭の草や垣根など伸び放題で手入れがされていない状態だったため、個人的に草刈りなどしてあげていた。

こうした経験から毎日の生活で困っている部分に手を差し伸べて生活がしやすいように応援しようという思いから立ち上がった。

取組の目的

- 町内会の定期的な見回り、見守り
- 草刈り
- 清掃
- 小さな案件対応（テレビや蛍光灯がつかない、物置の戸が閉まらない など）

これまでの経緯

年・月	出来事
平成28年7月頃	現メンバーの1人がシルバー人材センターで活動しており、その経験と情報から高齢者宅の見回りを兼ね、手の届かない要件を自分たちがしてあげられるような組織を作りませんかと提案があった。町内の仲間3人に声をかけ、計5人が集まる。活動を重ねるたびに声をかけ、11名で実施している
令和元年8月頃	市の新規事業「支えあい活動補助金」申請
令和6年11月	鹿児島市社会福祉協議会より活動に対して表彰を受ける
令和7年度	メンバー13名、対象先7件、空き家7軒、いずれも年8回草刈り・清掃活動 など実施

活動の概要

(内容)

- 庭や居宅周囲の草刈り
- 電気製品の簡単な修理
- ゴミ出し、買い物
- その他水道の軽微な漏水修理

(対象者・利用料)

- 上原町内に居住する者で70歳以上の高齢者で日常生活に支障をきたしている者。
- 身体障害者世帯で身近に支援をする人がいない者。支援が必要な子女だけの世帯。
- 要支援、要介護認定者、身体障害者は無料
その他は庭の広さにより 1回 500円～1,000円

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

[行政担当者としての役割]

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
(支えあい活動従事者研修会実施)

[SCとしての役割]

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート



現時点での到達点 (効果・課題など)

[効果]

- 高齢者の安否確認が月2～3回できる
- 庭の草が伸び過ぎる前に刈るので、管理された宅地になる
- 町内美化の一環となる
- メンバー間のコミュニケーションが頻繁になり、河川道草刈や資源回収などにみんなが協力意識を持ち参加してくれる

[課題]

- 若手（60才代以下）の参加

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

地域の概要



標高80mほどの高台にある造成から50年ほど経つ団地。高齢化率26.5%。団地内には大学病院や教育施設をはじめとした生活環境が整っている。

取組のきっかけ

高齢者が「安心して住み続けられる地域」を目指して、老人クラブ内で検討。有志で話し合いを重ね、身の回りのちょっとした困りごとを、できるときに、できる人が、できることをお手伝いすることにした。

取組の目的

- 高齢になっても自立心を持って自宅での生活を続けられるように、できないところを支援していきたい
- 地域を支えるのは地域の高齢者。「できない」を自分達の「できる」で支えたい
- できるときに、できる人が、できることで支えあうことが、住みやすい地域につながる
- 地域とのつながりを持つことの大切さを知ってほしい

これまでの経緯

年・月	出来事
令和元年6月	老人クラブ有志2名でみんサポ応援講座受講。
令和元年12月	市単老会長交流研修会にて支えあい活動補助金紹介と帯迫老人クラブの事例発表を聞く。
令和2年2月	支えあい活動補助金について生活支援コーディネーターの説明を聞き、メンバーで検討していく。
令和2年3月	支えあい活動補助金の申請準備を行う。
令和2年4月1日	老人クラブの有志にてボランティアグループを設立。支えあい活動補助金申請。
令和2年5月16日	ボランティア団体として社会福祉協議体へ登録。
令和3年5月	代表交代（設立時から一緒に活動していたメンバーに代表引継ぎ）
	利用者が亡くなったり、転居された方もいた為、活動回数は少なくなっている。町内会だよりで活動を紹介している。活動員も高齢化してきており、後継者育成も必要となってきている。

活動の概要

- ◆ **活動内容**：掃除、ごみ出し、買い物、庭の手入れ、外出付添、家電・家具の移動など
- ◆ **活動範囲**：鹿児島市桜ヶ丘5丁目地内
- ◆ **利用料**：無料
- ◆ **対象者**：地域内の高齢者世帯
- ◆ **構成員**：5名（男性3名、女性2名）
- ◆ **利用人数**：6名
- ◆ **活動に関わった人・団体**：老人クラブ
 - 民生委員
 - 地域包括支援センター

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
(支えあい活動従事者研修会実施)

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 利用者から感謝されることが活動の励みになる。

〔課題〕

- 活動員の高齢化
- 支えあい活動の輪の広げ方

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

04 支えあい活動団体 宮たすけ隊

鹿児島市
すこやか長寿部 長寿あんしん課

地域の概要



高齢化率は38.2%である。独居高齢者や高齢者のみの世帯が増加している事から、生活支援のニーズが高い。また、自治会加入世帯数は年々減少している。立地的にも買い物や通院は車が必要だが、公共交通機関は不便な地域。



取組のきっかけ

地域の高齢化が進むなか、高齢者が安心して暮らせる環境を整えるため、自治会で支えあい活動を実施できないかと考えた。また、活動の運営に必要な補助金についても調査を進めた。さらに、自治会の加入者が減少するなか、支えあい活動が加入促進の一助となるのではないかと期待し、ボランティア団体の設立に至った。

取組の目的

- 地域の高齢者が安心して暮らせる環境整備
- 自治会の活性化と加入促進
- 持続可能な支援体制の確立
- 住民間の交流の促進
- 高齢者の社会参加

これまでの経緯

年・月	出来事
令和5年10月	公民館長から生活支援コーディネーターへ相談
令和5年11月	校区の公民館長会で地域の支えあいに関する勉強会を開催
令和5年12月	地域住民3名でみんサポ応援講座を受講
令和6年1月	福祉アドバイザーを中心に地域住民向けの地域の支えあいに関する勉強会を開催
令和6年3月	活動に賛同した住民で支えあい活動団体設立に向けた話し合い
令和6年4月	鹿児島市支えあい活動団体登録
令和6年5月	支えあい活動（訪問型住民主体サービス）を開始

活動の概要

鹿児島市の総合事業における訪問型住民主体サービスとして、地域高齢者の生活支援を行っている。主な活動内容は、買物や通院の外出同行、買物代行、庭の手入れ。

活動の8割は外出同行で、その移動支援は活動員さんの自家用車を使って、利用者宅からお店や病院まで送り、その方の状況に応じて店内や病院内も付き添い、終わったらまたご自宅までお送りする。

◆活動内容： 外出付添、ゴミ出し、買物代行、草刈り、庭の手入れなど

◆活動範囲： 鹿児島市吉田圏域宮校区：吉水、平野、上河原、宮西を中心とした範囲

◆利用料： 500円/1時間（庭の手入れは1,000円/1時間）

◆対象者： 地域内の高齢者等

◆構成員： 16名

◆利用者： 実利用者数：11名、延べ利用者数：172名（令和6年度実績）

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報（HP等に事業内容掲載）
- 担い手育成
（支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 地域高齢者の支援の選択肢が増えた。
- 自治会の役割が増えた。
- 自治会の加入者が増えた。

〔課題〕

- 地域外からの依頼への対応。
- 専門職との連携。
- 活動に対する地域住民の理解。

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

05 地域の助け愛隊（わがえへんのたすけあいたい）

鹿児島市
すこやか長寿部 長寿あんしん課

地域の概要



小山田町は市の北西部に位置し、自然豊かな地域。少子高齢化が進み人口約2,000人、高齢化率が50%を超え空き家や耕作放棄地が多くなっている。

今後、担い手の育成や「お互い様」の心で支え合う地域環境作りが課題となっている。

取組のきっかけ

10年後地域の我々の生活環境はどうなっているだろう。今以上に空き家が増え、地域の防災面や景観なども心配。独居高齢者も増えて、庭先の草刈りなどの手入れや、照明器具の取り換え・電池交換などちょっとした困りごとで不自由な思いをする方が多くなると考え、元氣な今から互いに支えあう関係の構築、共助の志を育もうと声を掛け、賛同者を募った。

取組の目的

- 地域の皆さんが「安心」して過ごせたらとの思いで活動
- 相談は原則として断らない
- 同じ町内会なので顔見知りで安心。「お互い様」の気持ちを大切にしている（近助）
- 自分たちの生活環境は自分たちで守る！

これまでの経緯

年・月	出来事
平成24年5月	東日本大震災を機に自分たちができる事を何かしないと！と被災地支援を目的に地域内の膨大な耕作放棄地を活用し、お米をつくり、販売益で支援しようと「どんこ村開拓団」の設立
	地域内の耕作放棄地の再生、農業体験イベントも並行して実施（田植え、案山子づくり、稲刈り、餅つき大会、小川での魚釣り）し、都市部の子供たちへの情操教育の一助
	多世代交流により、地域の高齢者の生きがいづくりにもつながった
	これらの取組から、地域の事を語る機会が増え、絆が深まり、地域づくり活動の原点となった
平成29年11月	地域の皆さんが安心して暮らせる地域を目指すため『地域(わがえへん)の助け愛隊』設立
平成30年4月	市のモデル事業『生活支援支え手育成モデル事業』に申請
平成31年4月	市の新規事業「支えあい活動補助金」を申請
平成31年6月	鹿児島市支えあい活動従事者研修会(現みんサポ応援講座)を受講
	地域住民で協力しながら高齢者宅の庭の草払い等を中心に生活支援活動を実施

活動の概要

- ◆**活動内容**： 草刈り、剪定、家具家電の移動、家屋の簡単な修繕・補修・ゴミ出し等（営利目的・専門作業・危険作業は行わない。）
原則活動は複数人で実施⇒安全確認も含め生活空間の隣接部までが活動範囲
- ◆**活動範囲**： 小山田町上町内会
- ◆**利用料**： 作業員一人につきワンコイン（500円）
- ◆**対象者**： 地域内住民
- ◆**構成員**： メンバー50名
- ◆**利用人数**： 2017.12月～2022年度末まで延べ68戸に延べ375人で対応

息の長い活動にするため補助制度に頼らない組織に！！
いつかは支えられる側となる「お互い様」の繰り返し。
支えあう地域づくりを次世代へ継承していきたい。

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
(支えあい活動従事者研修会実施)

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 活動をすることによって、利用者、活動者共に笑顔が増えたこと。

〔課題〕

- 特になし



- 生活支援
- 見守り
- 協議体
- 買物支援
- 配達
- その他
- 移動支援
- 居場所づくり

06 東部地区協議会（支えあい事業）

鹿児島市
すこやか長寿部 長寿あんしん課

地域の概要



吉野は人口増加傾向で、年少人口比率が高い。土地区画整理が進んでいる区域を中心に良好な生活環境が形成されつつある一方、道路などの生活基盤が未整備地域もある。人口約5.1万人。高齢化率29.5%。

取組のきっかけ

10数年来休止していた老人クラブを平成28年に帯迫老人クラブとして復活。友愛訪問や奉仕活動を通じて、地域に貢献したり、関わりがでることによって、人生をより豊かなものにできると考え、友愛訪問活動の延長線上での生活支援活動を組織化した。令和7年度より東部地区の高齢者クラブで支えあい事業を広域化している。

取組の目的

- できる活動・参加しやすい活動を通じた会員本人の生きがいづくり
- 超高齢社会における地域での老人クラブ活動の役割
- 元気なうちは支える側としてできる範囲で活動することで、地域への貢献はもちろん、自分の生きがいにもなる
- 「やってよかった活動」を合言葉にして活動

これまでの経緯

年・月	出来事
平成28年12月	老人クラブの復活（帯迫老人クラブとして始動）
平成29年8月	定例会、臨時役員会で説明、話し合いを重ね、有志で支えあいグループを結成
平成29年9月	市のモデル事業に申請し、これまで友愛活動として安否確認、話し相手などを生活援助活動にあわせるボランティア活動を開始
平成31年4月	市の新規事業「支えあい活動補助金」を申請
令和元年7月	地域内の全高齢者（75歳以上の方）に活動の広報を兼ねてアンケート（ニーズ調査）実施し民生委員・児童委員協議会とも話し合いを行った
	高齢者宅の屋内外の清掃、ゴミ出し、話し相手等の支援を中心に活動中
令和7年4月	活動を東部地区（吉野、吉野東、川上、大明丘）へ広域化し、東部地区協議会（支えあい事業）と名称を変更。活動員も16名から33名と増員した。

活動の概要

- ◆ **活動内容**： ゴミ出し、話し相手、清掃・掃除、庭の清掃・草取り、病院付添い、調理支援、電球交換等
 - ◆ **活動範囲**： 鹿児島市吉野、緑ヶ丘、川上、下田町
 - ◆ **利用料**： 無料（原則として無償ですが、利用者の要望により有償利用も考慮されます。料金については応相談となります。）
 - ◆ **対象者**： 東部地区内の高齢者等（友愛訪問を通じて支援が必要と思われる方）
 - ◆ **構成員**： 33名
 - ◆ **利用者数**： 実利用者数：10名、延べ利用者数123名（令和6年度実績）
- 支えあい活動補助金をはじめ、各種助成事業等を活用して、老人クラブの財源を確保しつつ、地域に関わる活動へつなげている。

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報（HP等に事業内容掲載）
- 担い手育成
（支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 9年間活動することによって、地域に定着することができている

〔課題〕

- 他の高齢者クラブや様々な地縁団体にも活動が広まって欲しいこと。
- 支援を必要とする方が気兼ねなく、支援を受けられるよう、本人や家族の理解を得ることが重要。
- 支えあい活動を広く実施するために広域化（東部地区）しているが、全体的に活動が深化するには少し時間が要すると思われる。

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

07 まごころふぁーむ（支えあい活動・お茶いっぺサロン）

鹿児島市
すこやか長寿部 長寿あんしん課

地域の概要



吉野は人口増加傾向で、年少人口比率が高い。土地区画整理が進んでいる区域を中心に良好な生活環境が形成されつつある一方、道路などの生活基盤が未整備地域もある。人口約5.1万人。高齢化率29.5%

取組のきっかけ

大明丘・吉野町で野菜の販売をしている中で、坂の多い地域で買い物が大変そうな高齢者が多いと感じ、買い物に困っている高齢者に新鮮な野菜や食材を届けられないかと考えるようになった。また、野菜の販売を通じて出会う地域高齢者の他の困り事にも気づき、家族や友人と生活支援のボランティア団体を立ち上げた。

取組の目的

- 困ってる人が喜んでくれる仕事をしたい。
- 高齢者でも、障害があっても、暮らせる地域をつくりたい。
- 困っている方の駆け込み寺のような存在になればと思っている。

これまでの経緯

年・月	出来事
平成25年頃～	野菜の販売所、野菜の移動販売を開始 野菜の販売を通じて地域の高齢者と関わる中で、様々な生活課題に気づく
令和3年8月	大明丘地区で高齢者に対する買物支援や居場所づくりをしたいとSCへ相談
令和3年12月	一緒に活動をする知人と『みんなサポ応援講座(支えあい活動従事者研修会)』を受講
令和4年4月	支え合い活動団体発足、市の新規事業「支えあい活動補助金」を申請
令和4年5月	地域住民へ活動を知ってもらうため、広報チラシを作成し配布
令和4年6月	チラシを見た地域の高齢者から買い物の支援依頼があり、生活支援活動がスタート
令和4年6月～	支援を受けた高齢者から活動が口コミで広がり、ゴミ出し、草刈り等の支援をスタート
令和5年11月～	近所のつながりを築く事を目的としたサロン『お茶いっぺサロン』を月に1回～2回開催

活動の概要

- ◆ **活動内容**：ゴミ出し、買物代行、草刈り、庭の手入れ、外出付添、家具移動、電球交換など
- ◆ **活動範囲**：鹿児島市吉野地区、大明丘地区、他必要に応じて
- ◆ **利用料**：1,000円/1時間（応相談）
- ◆ **対象者**：地域内の高齢者等
- ◆ **構成員**：5名
- ◆ **利用者**：実利用者数：10名、延べ利用者数：50名（令和6年度実績）

【お茶いっぺサロン】

- ◆ **活動内容**：月に1～2回のサロンを開催。ちまき作り、防災講話、介護講話、スマホ講座など
- ◆ **参加者**：近所住民を中心に誰でも参加可能。高齢者から小学生まで平均15名程度が参加
- ◆ **開催場所**：サロン代表者宅軒先、社会福祉法人地域交流スペースなどを活用

【サロンの様子】



【ちまき作り体験】

【高齢者向けスマホ講座】

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
(支えあい活動従事者研修会実施)

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 手を差し伸べられたらの気持ちではじめて、簡単な作業でも感謝の気持ちを頂き、元気をもらえた

〔課題〕

- 広報活動の難しさ
(チラシ掲載が断られるケースもあり)

地域の概要



戦後まちづくりが始まり、昭和20年代にできた旧住宅街と昭和40年代に造成された新興住宅街からなる地域。平成8年に県庁が移庁される。高齢化率は37.3%。

取組のきっかけ

個々に奉仕活動をしていた人が集まり、趣味活動の講座等もしていた。1名がみんなサポ応援講座を受講したことがきっかけで、勉強会につながり、支え合い活動への意識が高まっていった。そこから校区コミュニティ協議会で具体化し組織化した。

取組の目的

- 住み慣れた地域において社会から孤立することなく安心して暮らすことのできる地域づくり
- 人々が集う、活気と魅力のある地域づくり
- お互いを思いやる地域づくり

これまでの経緯

年・月	出来事
令和元年	1名がみんなサポ応援講座（支えあい活動従事者研修受講）
令和2年2月	受講者から仲間とともに詳しい話を聞きたいとSCに連絡がある。有志が集まる場にSCも参加し、活動に向けた話し合いがはじまる。
令和2年8月	SCがコミュニティ協議会 社会教育部会主催「成人学級」にて「支えあい事業について」と題して1時間支えあい啓発を行う。参加者15名。
令和2年10月	有志にて支えあい活動を始めている。活動が軌道に乗れば補助申請を検討したい。
令和3年2月	鹿児島市支えあい活動補助金の申請を行う。
令和3年2月	鴨池校区コミュニティ協議会の事務局を支えあい活動団体みんなサポかもいけの事務局とする。
	支えあい活動の広報として、鴨池校区コミュニティ協議会の発行するLLかもいけにチラシを掲載。LLかもいけのポスティング作業を活動員が見守り活動の一環として開始する。
令和3年4月	LLかもいけのチラシを見た方から、電球交換や草払いなどの依頼がくる。
令和3年	鴨池校区コミュニティ協議会の事務局から登録している希望者へ週3回午前中（月・水・金）に個別の電話連絡を行う、見守りコール開始。必要に応じて、支え合い活動団体へのマッチングを行う。

活動の概要

◆活動内容

見守りコール、校区情報誌ポスティング時の見守り（毎月全戸配布）
高齢者110番：困りごと等の相談対応・生活支援（庭の手入れ、ゴミ出し等）

◆利用料金： 1時間500円（活動員1名につき）

◆対象者： 校区内の地域住民（特に高齢者）

◆活動会員： 44名（男性29名、女性15名）

調整役（12名）・高齢者110番（10名）、見守りコール（1名）・見守りポスティング（30名）

◆活動にかかわる人

- 校区コミュニティ協議会：【事務作業】と【問い合わせ窓口】のサポート
 - ・校区情報誌への掲載、サポートマップ作成等、ネットワークや広報活動
 - ・校区コミュニティ協議会事務局：月・水・金曜日の9時～12時／火・木曜日10時～12時
高齢者110番、見守りコールの窓口対応と事務作業全般
- 民生委員児童委員協議会、消防分団

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報（HP等に事業内容掲載）
- 担い手育成
（支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 活動を通して、コミュニケーションの輪が広がることで新たな仲間が増える
- 利用者と接することで、活動員に充実感が生まれる

〔課題〕

- 若手の担い手の加入

地域の概要



市の南部に位置する谷山地区は、団地においては同世代が一斉入居しており高齢化が進む一方、子育て世帯等の流入もあり、人口は横ばいで高齢化率は24.5%と低い。

取組のきっかけ

住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくことができるようにサポートしたいという思いから、町内会でともしびグループ（高齢者への声掛け、安否確認等）として活動を開始。活動を通じて、ちょっとした困りごとを抱えている高齢者が多いことに気づき、見守り活動と一緒に家事等のお手伝いを始めた。



取組の目的

- 自分でできることは一緒に取り組んでもらうようにしている
- 活動の入り口は目の前の人を笑顔に変える会話

これまでの経緯

年・月	出来事
平成25年頃	住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくことができるようにサポートしたいという思いから、町内会でともしびグループとして活動を開始。ともしび活動をしながら、ちょっとした困りごとを抱えている高齢者が多いことに気づき、見守り活動と一緒に家事等のお手伝いを始める。
	ボランティア団体として社会福祉協議会へ登録。
平成29年11月	市の「生活支援支え手育成モデル事業」へ登録。
平成31年4月	鹿児島市支えあい活動補助金の申請を行う
令和5年8月	遠方からの相談も、困っていると思うと断ることができない。相談の方の地域で活動員になってくれそうな方を探すが、その地域で高齢化が進んでいる状態。

活動の概要

◆**活動内容**：調理、掃除、ごみ出し、洗濯、買い物、庭の手入れ、外出付添、衣類整理、家具移動など

◆**活動範囲**：谷山地域

◆**利用料**：無料

◆**対象者**：地域内住民

◆**構成員**：男性1名、女性3名（計4名）

◆**利用人数**：7名

◆**活動に関わった人・団体**

- 本人・近隣住民・民生委員児童委員協議会
- 地域包括支援センター・ボランティアグループ「すまいる」



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

[行政担当者としての役割]

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
(支えあい活動従事者研修会実施)

[SCとしての役割]

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

[効果]

- 利用者から頼りにされることで、活動にやりがいを感じる
- 活動が健康維持につながり、介護予防になっている。

[課題]

- 問い合わせが多く、活動の規模により、場合によっては対応が難しい場合もあること。

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

10 吉野地域支えあい座談会による『すまいるドライバー養成セミナー』

鹿児島市
すこやか長寿部 長寿あんしん課



地域の概要



吉野は人口増加傾向で、年少人口比率が高い。土地区画整理が進んでいる区域を中心に良好な生活環境が形成されつつある一方、道路などの生活基盤が未整備地域もある。人口約5.1万人。高齢化率29.5%



取組のきっかけ

地域の高齢化が進むなか、身体機能の低下や免許返納により外出が難しくなる高齢者が増えている。その一方で、家族や知人、ボランティアなどが送迎を担う機会も増えており、安全面への配慮がより一層求められる状況となっていた。こうした背景から、移動支援に関わる住民や事業所職員が安心して活動できるよう、安全運転や介助技術を学ぶ機会として「すまいるドライバー養成セミナー」を開催することとなった。

取組の目的

- 移動支援に関わるドライバーの安全運転技術の向上
- 高齢者や障害者への適切な介助技術の習得
- 地域全体の移動支援の質と安心感の向上

これまでの経緯

年・月	出来事
令和6年7月	県社協の研修で移動支援の事例を発表 「送迎支援に関する運転や介助技術を学ぶ場がない」との声が寄せられる
令和6年秋頃	地域団体や送迎活動員、住民からもボランティア送迎員の安全対策の要望が広がる
令和6年12月	地域主体の2層協議体「地域支えあい座談会」の設立を検討
令和7年2月	吉野圏域にて「吉野地域支えあい座談会」を設立し、介護送迎における安全対策について協議
令和7年5月	吉野自動車学校の協力により「第1回すまいるドライバー養成セミナー」を開催
令和7年11月	「第2回すまいるドライバー養成セミナー」を開催

活動の概要

- 取り組み内容・・・移動支援や送迎に関わる住民・事業所職員等を対象に、安全運転技術や介助スキルを学ぶ講習を実施。座学・実車演習・介助実技を組み合わせ実践型セミナー『すまいるドライバー養成セミナー』を開催。
- 開催頻度・・・年2回開催（R7年度：7月・10月を予定）。年度末には修了者交流会も企画。
- 受講人数・・・第1回：定員30名に対し約40名の応募、最終参加者36名。
第2回：参加者20名。
- 受講料金・・・1,000円（補助金活用により低額設定）。修了者には認定証・缶バッジ・車用ステッカーを配布。
- 関わった団体・・・主催：吉野地域支えあい座談会（第2層協議体）
協力：吉野自動車学校、交通安全協会、JAF、社会福祉法人、NPO法人、介護事業所、行政、地域包括支援センター

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- | | |
|--|--|
| <p>【行政担当者としての役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 協議体への参加 ● 実施に向けて活用できる補助金等の情報提供 ● 当日の手伝い | <p>【SCとしての役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 協議体の開催支援 ● 関係機関への協力依頼 ● 周知広報 |
|--|--|



現時点での到達点（効果・課題など）

【効果】
実施後のアンケート結果から、受講者の安全意識の向上、地域での信頼感の醸成、多様な主体の繋がりができたと感想をいただいた。

- 【課題】
- 予算、資金面の確保
 - 関係者の理解促進
 - 参加者募集、確保
 - 講座内容、プログラムの向上
 - 受講者へのフォロー等

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

11 「ちょこっと世話やき隊」による地域支援活動

阿久根市 介護長寿課地域包括支援係

地域の概要



阿久根市は県北西部に位置し、北部に長島町、東部に出水市、南部に薩摩川内市が隣接している。人口18,147人、77集落があり、高齢化率は43.37%と県の平均値よりも高く、年少人口の割合は県平均値よりも低い状況である。



取組のきっかけ

高齢者のみの世帯の増加や人口減少により、買い物や移動といった日常生活に不可欠なサービスの利用が困難になり、また、担い手不足により地域の商店は閉店し、これまで家族の支援や近隣住民での助け合いでできていたことができなくなるなど、高齢者を取り巻く生活課題が増えてきたことから、生活支援に関する「ボランティアグループ養成講座」を開催。受講者の中から生活支援を行う有償ボランティア『ちょこっと世話やき隊』を発足した。

取組の目的

- 地域住民の支え合い活動の推進
- 日常生活の困りごとに対する支援
- 支援者(世話やき隊)の方々の生きがい・やりがいづくり

これまでの経緯



年・月	出来事
平成31年1月	阿久根市「福祉のつどい」に参加された市民の方々へ地域づくりについてのアンケートを実施
平成31年3月	アンケートから地域活動、地域づくりに興味のある方を対象に「阿久根市地域づくり勉強会」を開催
令和元年8月 令和2年1月	生活圏域に分かれ、地域の実情にあった「阿久根市地域づくり勉強会」をそれぞれ開催(全4会場)
令和2年7月	社会福祉法人の協力のもと、買物支援×介護予防の取り組み「ドライブサロン」が始まる
令和2年9月	生活支援に関する「ボランティアグループ養成講座」を開催(全5回講座)
令和3年1月	地域支援活動『ちょこっと世話やき隊』を発足
令和4年1月	ちょこっと世話やき隊連絡会での話し合いがきっかけで「ちいき食堂」が3ヶ所開設
令和5年3月	ちょこっと世話やき隊の中から、鶴川内地区を中心に刃物研ぎを通して地域の困りごとに対応する『楠本会』を発足
令和7年2月	ちょこっと世話やき隊連絡会の話し合いの中で「買い物代行」「付き添い支援」を支援内容に追加

活動の概要

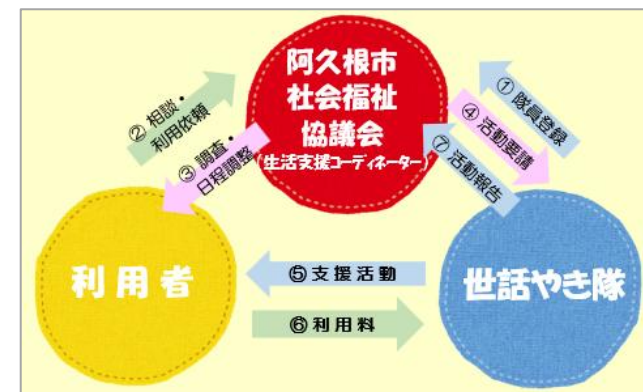
- 支援内容
 - 【屋内作業】①家事代行 ②布団干し ③電球交換 ④敷物(絨毯など)の敷き替え
 - 【屋外作業】①草払い ②草取り ③ごみ出し ④庭木の剪定
 - 【その他】①軽微な修繕 ②刃物研ぎ ③買い物・付き添い支援 ④その他生活支援
- ※30分の支援に対し300円を利用者に負担していただく。
その他支援内容に応じて利用者負担

- 支援対象者
 - ・一人暮らしの高齢者
 - ・高齢者のみの世帯
- 活動に関わった人・団体
 - 生活支援コーディネーター、
 - 行政、民生委員



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- 地域課題の把握
- 支援が必要な方との相談・調整
- 世話やき隊員の活動に関する相談
- 世話やき隊員との連絡会の企画・開催
- 資源開発の検討・創出
- 事業主(行政)との情報共有
- 社協だよりによる周知広報



【活動の流れ】

現時点での到達点(効果・課題など)

【効果】

個別ケースの地域ケア会議において「ちょこっと世話やき隊」による支援の提案ができるなど、相談体制の充実が図れた。

【課題】

- 世話やき隊員の不足
 - ・各集落に世話やき隊員がいることにより、見守り体制や支援が行き届く
 - ・世話やき隊がない集落への周知
- 担い手不足
 - ・次世代の世話やき隊員の確保

- 生活支援
- 見守り
- 協議体
- 買物支援
- 配達
- その他
- 移動支援
- 居場所づくり

12 大川内地区コミュニティ協議会「てげてげふれあい助け隊」



出水市 いきいき長寿課

地域の概要



出水市の北東の山間部に集落が点在する大川内地区。人口583人、高齢化率60.03%（R7.9月現在）と高齢化、過疎化がどんどん進む。



取組のきっかけ

協議体でもある大川内地区コミュニティ協議会が進む高齢化を危惧し、地域でいつまでも暮らすためにも「助け合い」を取り入れた有償ボランティア活動に取り組むたいが、どう進めたらいいかわからないと生活支援コーディネーターに相談があったため、地域住民の目線の共有からはじめ、できる活動を話し合い、取組に至った。

取組の目的

- 地域住民の助け合いに関する意識の共有を大事にする
- いつまでも自分らしく暮らせる地域になるよう地域住民内で解決できる活動にする
- 地域住民でできる事をできる人ができる範囲でやれる活動を進める
- 見守りがかねてのコミュニティづくり

これまでの経緯

年・月	出来事
令和5年7月	助け合いに関する住民アンケート実施
令和5年9月	助け合いに関する勉強会① アンケート結果の考察と大川内地区の現状把握
令和5年10月	助け合いに関する勉強会② 他地区の有償ボランティアの事例を学ぶ
令和5年11月	助け合いに関する勉強会③ 自分達が出来るような有償ボランティア活動を草刈りとした。
令和6年1月	助け合いに関する作戦会議 「てげてげふれあい助け隊」と名称を決め、しくみの大枠を固めた。
令和6年2月	さわやか福祉財団「地域助け合い基金」採択 ベスト、ヘルメット、チラシ等の資金に充当した。
令和6年4月	「てげてげふれあい助け隊」結成披露、地域全戸へチラシ配布
令和6年7月	第1号草刈り依頼実施
令和6年7月	「てげてげふれあい助け隊」隊員草刈り研修会実施
令和7年2月	出水市高齢者等ごみ出し支援事業を活用し、ごみ出し支援チームが結成した。

活動の概要

- ① 草刈りチーム 依頼のあった地域住民の家屋周辺の草刈りを有償で実施する。
 隊員：地域住民有志 17名 15自治会を5グループに分け、依頼担当グループが活動を行う。
 原則2名で活動を実施、依頼後、見積、当日の実施で見守りを兼ねる。
 地区コミ：依頼の窓口、隊員への連絡、活動日の保険加入を担当する。
 [頻度・利用人数・利用者負担]
 ● 電話にて随時依頼
 ● 年間5件程度
 ● 利用料金は見積で試算 2名活動で1時間2,000円から（利用者が当日直接隊員へ支払う）

- ② ごみ出し支援チーム 利用者が玄関先に出したごみを支援者がゴミステーションに出す
 隊員：地域住民有志
 地区コミ：出水市高齢者等ごみ出し支援事業の申請団体として手続きを実施、保険加入を担当する
 [頻度・利用人数・利用者負担]
 ● 燃えるごみの場合、年間50回以上（補助金は1回100円 50回分5,000円上限）
 ● 1世帯
 ● 利用者の負担はなし 年度末に実績報告した補助金を隊員へ支給

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- | | |
|--|--|
| <p>〔行政担当者としての役割〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 助け合いに関する勉強会の際、地域の現状、他地区の現状等を報告 ● ごみ出し支援の市事業への登録手続き・補助金申請等の支援を実施 | <p>〔SCとしての役割〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 助け合い活動の目線の共有のため、活動実施までの過程を大切に取り組んだ。 ● 隊員の負担にならないような仕組みづくりを支援 ● 助成金の申請支援 |
|--|--|



現時点での到達点（効果・課題など）

- | | |
|--|---|
| <p>〔効果〕</p> <p>草刈りは毎年リピート利用があり、利用者に喜ばれている。ごみ出し支援も見守りを兼ねた活動として利用者の感謝の声があがっている。</p> | <p>〔課題〕</p> <p>隊員も高齢であるため、自分達ができる範囲の取組として実施しているが、アンケートの要望にもあった山林・田畑までの草刈り支援、家事支援や移送支援までには至っていない。</p> |
|--|---|

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

13 「大川内地区ドライブサロン買い物バス」で買い物支援

出水市 保健福祉部 いきいき長寿課

地域の概要



出水市の北東の山間部に集落が点在する大川内地区は、人口635人、高齢化率57.95%（R5.8.1現在）で、車がないと生活も困難である。地区内には買い物する場がなく、友人との行き来も減少して住民の孤立が危惧されていた。



取組のきっかけ

地区コミュニティ協議会のアンケート調査で、買い物の場、憩いの場がほしいという要望が多かった。生活支援体制整備事業を取り組むに当たり、社会福祉法人から車の提供をいただける地域資源があると判明し、この地区で買い物バス運行を実施できるように、地区コミュニティ協議会を中心に第2層協議体が発足し、事業を取り組むことになった。

取組の目的

- 交通弱者への買い物の支援
- 高齢者の一人世帯、高齢夫婦世帯の見守り活動
- 見守りをかねてのコミュニティづくり



大川内地区コミュニティ協議会ホームページ

これまでの経緯

年・月	出来事
平成29年12月	大川内地区で拠点・買い物に関するアンケートを実施。買い物の場、憩いの場の切望が判明。
平成30年6月	社会福祉法人から車を提供してもらい、買い物バスとして生活支援体制整備事業ができないか構想。
平成30年8月	大川内地区コミュニティ協議会で事業を進めていくことを決定し、SCが地区内の65歳以上の一人暮らし及び高齢夫婦のみの世帯を対象に聞き取り調査を開始。
平成30年9月	大川内地区コミュニティ協議会健康づくり部会にて買い物バス運行地域や方法など検討する。
平成30年11月	大川内・東出水地区高齢者生活支援体制整備推進協議会を発足。
平成30年11月	車両を提供する2社会福祉法人、社協、コミュニティ協議会、行政、SCで、薩摩川内市入来地区での買い物支援事業を視察研修実施。
平成30年11月	出水市地域公共交通会議にて買い物バス運行について周知、注意事項等を教授。
平成30年12月	関係機関参加で実施内容を検討し、ドライブサロンの要綱、送迎マニュアル、手引きをまとめる。
平成31年1月	買い物バスドライブサロン試行運転、実施の修正を行う。
平成31年4月	大川内地区買い物バス、ドライブサロン事業を本格運行。

活動の概要

出水市、社会福祉法人、地区コミュニティ協議会、社会福祉協議会が協働し、高齢者サロン活動の一環として買い物支援を実施している。

- 地区コミュニティ協議会：事業主体として登録者の利用状況を管理、運営。
- 社会福祉法人：車両と運転手、スタッフを提供。
- 社会福祉協議会：高齢者サロンとして活動を支援、SCが同乗し、運営支援。

[頻度・利用人数・利用者負担]

- 2社から車両提供があり、各月1回ずつ。（第2、第3木曜）登録地域によって、コースがあり、降車は自宅前。ドライブ中の交流と目的地での買い物支援を実施。
- 利用者数は、平均7人程度。
- 利用料金無料。

[活動に関わった人・団体]

生活支援コーディネーター、市町村、社会福祉協議会、大川内地区コミュニティ協議会、社会福祉法人興生会、社会福祉法人鶴寿会、自治会長、民生委員、在宅介護支援センター

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

[行政担当者としての役割]

- 2層協議体で今後の事業方針を説明
- 関係団体の連携
- SCと定期的な情報共有

[SCとしての役割]

- 地域住民の聞き取り調査
- 社会福祉法人興生会、社会福祉法人鶴寿会との連携
- 買い物支援についての周知と協力者の募集



現時点での到達点（効果・課題など）

[効果]

月に一度の買い物バスを楽しみにしている利用者が多い。買い物の利用以上に、参加者とのバスでの会話が一番の目的ととらえ、買い物バスが地域の交流の場となっている。

[課題]

利用登録者数の維持。現在は車両の定員としてちょうどいいが、施設入居の為地域を離れる方もおり、利用者数が減少している。新規の利用者の方への声かけが必要。

- 生活支援
- 見守り
- 協議体
- 買物支援
- 配達
- その他
- 移動支援
- 居場所づくり

14 おじさんたちのうまカレー食堂

出水市 保健福祉部 いきいき長寿課

地域の概要



当該地域は、野田地区、江内地区、荘地区で一つの生活圏域を形成しており、人口は6,097人、高齢化率は42.41%である。(R6.9.1現在)
 高齢化が進んでいるが、地域のまとまりは強く、様々な事業の開催や活動への参加が積極的に行われている。

取組のきっかけ

令和元年に男性限定の「男の料理教室」同好会立ち上げ後、年4回の調理実習を実施している。令和5年6月、コロナが5類になった時、同好会で初めての懇親会を行った。その際、子ども食堂が話題に上がり「年1回のカレーならばできる」と皆の気持ちが一つになった。



取組の目的

- 世代間交流（高齢者と子どもたちが世代を超えて交流を図る）
- 地産地消と地域力（食材提供してくれる人・調理する人など、地域全体で子どもを育てる）
- 子どもたちの記憶に残る思い出作り



これまでの経緯

年・月	出来事
令和5年6月	年1回のカレー食堂実施提案。企画書作成し、出水保健所へ相談・助言を頂く。
令和5年7月	野田町内の農家・企業に「男の料理教室」同好会らとSCが企画書持参し、主旨説明。協力が得られる場合は連絡を頂くとする。
令和5年8月	食材提供お願いのポスターをスーパーなどに貼る。野田小学校・中学校へ「男の料理教室」代表とSCが出向き、企画書持参で主旨説明。賛同を頂き、学年を限定するなど詳細を話し合う。
令和5年9月	食材調達などの寄付が寄せられ、実施を確定。
令和5年10月	野田小学校・中学校の保護者宛てのお知らせ（案内）文書を作成し、学校側に配布依頼。「おじさんたちのうまカレー食堂」の施行を実施し、調理時間や装う量など確認。
令和5年11月	参加人数がほぼ確定し、食材調達や必要な買い物など事前準備。
令和5年12月	第1回「おじさんたちのうまカレー食堂」開催。後日、反省会
令和6年7月	第2回「おじさんたちのうまカレー食堂」開催

活動の概要

活動内容：子どもたちと高齢者で会食と音楽レクを楽しむ
 食材提供の個人や企業：12か所程
 提供食事：カレー&鶏の唐揚げ
 活動頻度：年1回
 対象者：小学生と妹弟・中学生・保護者・教職員
 参加人数：第1回目 84名
 第2回目 140名
 参加費：無料
 関わった人・団体等：
 野田小学校・野田中学校
 地域の企業及び個人
 出水市役所・野田支所
 出水市社会福祉協議会
 野田食生活改善推進協議会
 男の料理教室同好会



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業内容の把握と助言及び安全確認

〔SCとしての役割〕

- 「男の料理教室」の地域貢献広報
- 男性の活躍の場の推進
- 世代間交流と達成感の機会の設定



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 地域力と地域の人の温かさを知ることができた。
- 高齢男性全員がグループラインを駆使し、時代に沿った情報共有ができるようになった。
- マスコミに取り上げられたことで、活動に誇りを持ち次に向けての意欲が増した。

〔課題〕

- 食中毒への注意が最も重要。
- 学校側と日程決定の調整。
- 継続的な食材提供の心配。

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

15 「米ノ津東地区コミュニティ協議会スマイル体操教室」で介護予防

地域の概要



水俣市との県境に位置する米ノ津東地区は、人口6,645人、高齢化率36.12%（R5.8.1現在）で、平成26年に米ノ津東地区コミュニティ協議会を設立し、地域課題に向けて取り組む機運が高まっていた。



取組のきっかけ

- 地区コミュニティ協議会設立時の住民アンケート調査により、病気や健康に不安を抱えている方が多いことが判明。継続的に取り組む仕組み作りが必要であった。
- 独自の体操で効果を上げている自治会があり、その体操を広めるため、地区コミュニティ協議会で運営する体操教室を始めるに至った。

取組の目的

- 健康寿命を延ばすため介護予防体操の実施
- 自治会の垣根を越えて集まれる居場所作り
- ボランティアスタッフによる運営で総合事業通所型サービスBとして地域の通いの場づくり

これまでの経緯

年・月	出来事
平成26年	地区コミ協設立時の住民アンケート調査で、病気や健康に不安を抱えている方が多いことが判明、その解消に取り組む必要があった。
平成30年8月	独自の体操が効果のあった六月田下自治会の体操を他の自治会に広めるため出前講座をした。
令和元年7月	米ノ津東地区夏祭りに向けて週1回コミ協多目的室にて盆踊り練習会を実施。
令和元年8月	米ノ津東地区夏祭りの練習をきっかけに、米ノ津東地区の誰でも受け入れ可能な「スマイル体操教室」を開始。立ち上げと同時に、高齢者元気度アップポイント事業を申請。
令和元年9月	行政と第2層SCで佐賀県嬉野市へ総合事業通所B実施に向けて視察研修。
令和2年6月	体操教室会場をJA会議室に変更し、体操終了後、同敷地内のAコープで買い物の流れができた。
令和2年12月	参加人数が増えて、コミ協多目的室利用も復活させ、2箇所同時のオンライン体操教室とした。
令和3年7月	スマイル体操教室が出水市介護予防・日常生活支援総合事業通所型サービスBに認定、開始。
令和3年8月	誰でもいつでも体操ができるように体操動画DVDを作成。希望する自治会サロンには無償で配布。
令和3年12月	コロナ禍によりコミ協多目的室が使用できなくなり、JA会議室のみの2部制での運営に変更。

活動の概要

出水市米ノ津東地区コミュニティ協議会が地域発の独自の介護予防体操教室を実施し、出水市介護予防・日常生活支援総合事業通所型サービスB事業として取り組んでいる。

地区コミュニティ協議会：体操教室の運営
 行政：総合事業として取り組むための整備、支援
 社会福祉協議会：運営支援

〔頻度・利用人数・利用者負担〕

- 週一回木曜、①9時、②10時半からの2部制で、体操、歌踊りなどを実施。
- 利用人数は各部30名、計60名程度
- 利用料金は100円

〔活動に関わった人・団体〕

生活支援コーディネーター、米ノ津東地区コミュニティ協議会、JA鹿児島いずみ米ノ津事業所、社会福祉協議会、出水市包括支援センター、市民ボランティア協力者



米ノ津東地区コミュニティ協議会ホームページ

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 第2層協議体で活動把握、今後の事業を後押し
- 総合事業通所型サービスBとしての連携
- SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

- 高齢者元気度アップポイント事業の事務手続支援
- 出前講座申込受付
- SNSでの活動の広報
- 総合事業通所型サービスBとしての運営支援（事務手続支援含む。）



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 体操直後に低脂肪乳とビスケットを摂取することで筋肉の維持向上を図る。
- 3ヶ月毎の骨格筋量測定を実施。結果を表にして各自に配布。自分の筋肉量が見える化することで継続的に取り組む励みになっている。

〔課題〕

自治会単位で体操が実施できるようにDVDの配布、出前講座等を行っているが、継続して実施する自治会が少ない。

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

16 男性限定サロン「男ん衆で楽しも会」

出水市 保健福祉部 いきいき長寿課

地域の概要



野田町は、人口3,635人、高齢化率40.17%（R5.8.1現在）で、平成18年に出水市に合併以前はひとつの町として運営していたため、地域内で完結、まとまりある地域ではあるが、車両がないと不便な山間部もある。



取組のきっかけ

高齢者を対象にした活動が多数展開される中、グラウンドゴルフを楽しむ男女比は半々であるのに対し、その他の活動は、参加者の約9割が女性である。

また、高齢者訪問で、男性は女性に比べて他者とのコミュニケーションを苦手とするがゆえに、地域交流が希薄な方が多いと感じた。

そこで、男性に特化した事業を模索し、男性限定で少人数の活動を実施することとした。

取組の目的

- 閉じこもりではないが、日中一人で過ごしている男性に外出を促し、他者との交流を通して介護予防につなげていく
- サロンの活動が高齢者同士の交流の場になり、脳の活性化や運動不足の解消に繋がる
- 定期的な活動により、生活や健康の変化に気づき、安否確認が出来る

これまでの経緯

年・月	出来事
令和4年12月	他者との交流が希薄な高齢男性の存在が気がかりで「何か出来ないかと模索している時、ボランティアグループ《さわやか会》から活動希望の相談。
令和5年1月	高齢男性を対象にした新規事業案を《さわやか会》代表と検討を重ねるが、会員の年齢層が高く、《さわやか会》による活動支援は困難と判断。
令和5年2月	新規事業「男性の通いの場」の実施要綱（案）を作成。2層協議体である野田地区高齢者生活支援推進協議会にて説明し、全員の同意を得る。
令和5年3月	高齢者訪問員の協力にて対象者をリストアップ。声掛け訪問で参加者を募る。活動場所・活動ボランティアを確保。
令和5年4月	登録者の緊急連絡先など情報、及び緊急時も含む活動時のマニュアル作成。 4月28日 事業開始。大型車での送迎や健康チェックの対応に問題あり。
令和5年5月	軽車両でピストン送迎・コミュニティルームでの健康チェックなど問題点を修正し、5月12日、実施。

活動の概要

2層協議体が実施主体となり、社会福祉法人とボランティアが協働し、男性限定（要支援介護認定を受けていない65歳以上の男性）のドライブサロンとして外出支援、買い物支援を実施している。

2層協議体：事業主体として、登録者の利用状況を管理、運営。

社会福祉法人：車両提供、担当2層SCが運転手兼運営支援

市民ボランティア：運営支援

〔頻度・利用人数・利用者負担〕

- 月1回（第4金曜日 午前9時～13時）茶話会、体操、ドライブ、買い物を実施する。
- 利用人数 7名
- 利用料金100円

〔活動に関わった人・団体〕

生活支援コーディネーター、野田地区高齢者生活支援推進協議会、社会福祉法人双葉会、市民ボランティア協力者、鹿児島相互信用金庫野田支店（集合場所の無償提供）、社会福祉協議会

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 第2層協議体で活動把握、今後の事業を後押し
- SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

- 活動時、車両の運転
- 毎月の活動内容の企画や連絡調整、有志への連絡、実施前日の声掛け等



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

参加者全員が自宅の外で迎えを待ち、活動中、皆が笑顔で語り合うなど、いつも一人で過ごし、友達と呼べる仲間もいなかった方々が月に1回の「男ん衆で楽しも会」の活動を楽しんでいる。

〔課題〕

- 閉じこもりがちな方に（外出して他者との交流）を促すことの難しさ。
- 今後、希望者が増えた場合、事業をどのように行っていくか。協力事業者を募れるか。

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

17 「仮屋おたすけ会」による生活支援

指宿市 市民福祉部 長寿支援課

地域の概要



【指宿市北西部に位置する仮屋地区（池田校区）】

- ・高齢世帯が多い
- ・高齢化率 63%
- ・買物や移動などの生活課題あり

取組のきっかけ

生活支援コーディネーターが地域資源開発の取組みとして、地域内の困りごとを地域内で解決する有償ボランティアの組織化について地区へ提案したところ、困っている高齢者を支える仕組みを創りたいとの希望があり、本市で初めて実施することとなった。

取組の目的

- 日常生活の中での困りごとの支援
- できる時にできることを支援し気軽に頼める関係づくり
- 見守りを兼ねたコミュニティづくり
- 高齢者が担い手として役割と生きがいを持ち健康長寿につなげる

これまでの経緯

年・月	出来事
令和3年10月	生活支援コーディネーターから地区へ取組みを提案。
令和3年12月	視察研修やワークショップ（ニーズと手伝えそうなことを出し合う）を実施。
令和4年1月	ワークショップの意見を踏まえた規約及びチラシ案を検討し作成。
令和4年2月	担い手の募集と勉強会を実施。公民館役員会へ規約案などについて説明。
令和4年3月	地区総会で提案し、住民の同意を得る。
令和4年4月	発足式
令和4年5月	利用申込み開始。老人クラブ連合会に発足及び活動内容等について紹介。
令和4年6月	近隣校区の見守りグループ構成員に発足及び活動内容等について紹介。
令和4年7月	のぼり旗作成。開始後のニーズ状況について地区と協議。
令和5年4月以降	気になる高齢者宅を訪問し、おたすけ会の説明やマッチングを行う。

活動の概要

仮屋地区では、高齢者などが日常生活において、ひとりでは対処できない困りごと（ごみ出し・買物・草むしりなど）を支援するために、地区住民による有償ボランティアを行う互助組織を構築し、生活支援を実施している。

〔組織〕

発足：令和4年4月

組織構成：「仮屋おたすけ会」15人 会長・副会長・支援員・見守り委員
（公民館長・民生委員・老人クラブなど）

〔利用人数・利用者負担〕

利用人数： R4年度 1人
R5～6年度 なし

利用者負担： 支援員1人あたり 30分 200円
以降、30分ごとに200円（計2時間以内）

〔活動に関わった人・団体〕

生活支援コーディネーター、市、社会福祉協議会、仮屋地区

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- SCと定期的な情報共有
- 第1層協議体で事業説明

〔SCとしての役割〕

- 地区への困りごとに関する聞き取り
- 有償ボランティア組織の活動支援
- 社協広報紙やホームページで活動周知



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 戸別訪問し、些細な困りごとを聴きながら、身近で気軽に使える支援であることを説明することで住民の理解を深め、利用につながりやすい。
- 顔の見える身近な地区内で安心して支援が受けられる。

〔課題〕

仮屋地区の住民に「仮屋おたすけ会」への理解と気軽な活用を促すため、戸別訪問による働きかけを行っているが利用者がいない。地区住民の高齢化により、今後の支援体制の存続が懸念される。

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

18 「生活お役立ち情報 食の宅配サービス」

指宿市 市民福祉部 長寿支援課

地域の概要



指宿市は、薩摩半島の南端に位置し、観光資源を豊富に持つ。
 現在は、高齢化率が42%となり高齢化が進む。
 地域資源が乏しく、買物や移動などの生活課題を抱える地域がある。

取組のきっかけ

「食」に関する支援を必要とする在宅高齢者が増加したため、生活支援コーディネーターが食に関する宅配サービスなどを行っている身近な店舗から収集した情報をまとめ、支援が必要な高齢者とのマッチングに活用することとなった。

取組の目的

- 買物が困難な方への支援
- 安否確認・見守り支援
- 課題解決に必要な団体と連携する

これまでの経緯

年・月	出来事
平成30年	商工会議所や商工会を通じて加盟店の情報について調査を実施。
その後	「生活お役立ち情報 食の宅配サービス」作成 ※SCによる各店舗情報の集約。内容は随時更新している。



活動の概要

市内の店舗から、「食」に関するサービスについて収集した情報をまとめ、在宅生活を続ける高齢者の買物支援の一助として活用している。

〔掲載内容〕
 店舗基本情報（連絡先、営業時間など）、取扱商品、配達圏域など

〔窓口設置・掲載場所〕
 設置：指宿庁舎、山川支所、開聞支所、社会福祉協議会
 掲載：社会福祉協議会ホームページ
 ※ケアマネジャーなどへも随時情報提供を行っている。

〔活動に関わった人・団体〕
 生活支援コーディネーター、社会福祉協議会



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- | | |
|---|---|
| <p>〔行政担当者としての役割〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SCやまちづくり担当部署と定期的な情報共有 ● 協議体で事業説明 ● 居宅介護支援事業所への紹介・情報提供 ● 研修会などでの紹介 | <p>〔SCとしての役割〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域にある店舗への情報聴き取り取材 ● お役立ち情報の情報更新 ● 社協広報紙●ホームページでの紹介 ● 研修会などでの紹介 |
|---|---|

No.	
ふりがな	やまもとしょうでん
店名	山元商店
住所	指宿市 宮本1-16-8
電話番号	090-7982-9735 (山元)
FAX	
所在地	今和泉
配達料	配達料 0円
取扱商品	米、パン、肉類、野菜、調味料
配達できる範囲(校区)	指宿、魚見、御田、丹波、今和泉、池田、山崎川、山崎、山崎光、山崎永、開聞、川尻

現時点での到達点 (効果・課題など)

- | | |
|---|---|
| <p>〔効果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 居宅介護支援事業所やご家族などに紹介することにより利用につながり、在宅での生活が維持されている。 ● 民間事業者の一部では、離れた家族とLINEでつながり、訪問時の様子を写真で情報提供し喜ばれている。 | <p>〔課題〕</p> <p>地域の個人商店が継続するためにも、店舗情報を速やかに更新し、支援を必要とする高齢者とのマッチングにつなげていく。</p> |
|---|---|

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

19 西之表市高齢者支援協議会

西之表市 高齢者支援課

地域の概要



市内人口13,754人（男性6,722人、女性7,032人）65歳以上人口5,547人（男性2,407人、女性3,140人）、高齢化率40.33%。

〔R7.3月末現在〕

高齢者の増加に伴い、年々認知症高齢者・独居高齢者・高齢者のみの世帯など、見守りや生活支援を必要とする高齢者も増加してきている。

取組のきっかけ

支援を必要とする高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活していくためには、地域の支え合いの体制が必要不可欠である。そのような体制を推進するために、市では高齢者支援協議会の設立を進めており、現在、38協議会が地域において活動を行っている。

取組の目的

- 高齢者等の見守り支援
- 高齢者等の生活支援
- 行政や関係機関との情報共有
- 地域における介護予防の推進

これまでの経緯

年・月	出来事
平成21年4月	県の認知症地域支援体制構築等推進事業を活用し、7地区（5校区・2自治会）で高齢者支援協議会活動が開始。
平成26年4月	全13校区（榕城校区は上・下）に協議会が設置。
令和7年4月	38地区（13校区、25自治会）に協議会が設置され、活動している。

活動の概要

- 地域内の高齢者の見守り・声掛けを行う。
- 支援が必要な高齢者のゴミ出しや買い物、送迎、清掃等の生活支援を行う。
- 協議会を開催し、見守りが必要な高齢者のリストアップ・見直し、困りごと等、地域包括支援センターとも連携し、情報共有を行う。
- 健康診断受診や適度な運動など、介護予防に心がける機運づくりを行う。

〔令和6年度の実績〕

- 協議会数…37協議会
- 生活支援を行った高齢者世帯数…111世帯

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕 〔SCとしての役割〕

- | | |
|----------------|----------------------------|
| ● 高齢者支援協議会への参加 | ● 地域の高齢者へ困りごと等の聴き取り |
| ● SCとの連携、情報共有 | ● 社会資源の調査・情報提供・周知 |
| ● 見守り活動等の委託契約 | ● 困りごとを抱えている高齢者に応じたサービスの検討 |

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- ヘルパーの介入や親族の協力が得られない場合、協議会で支援を行っている。
- 定期的な活動が定着してきているところが増え、地域内での見守り体制が構築できつつある。

〔課題〕

- 見守り等以外どのような活動をすればいいのかわからないという意見もあり、活動が見えない協議会もあるため、それぞれの協議会の活動内容を紹介するなどして参考にしてもらっている。
- 役員、支援者等の人材不足。

地域の概要



肥沃な平野の広がる川内川以北に位置する可愛地区には、数多くの史跡や旧跡がある。ニニギノミコトゆかりの伝説もある神亀山の可愛山稜やニニギノミコトを祭る新田神社もある。



取組のきっかけ

ごみ出しに困っている人がいる事に気付いた見守り役の方々により、自治会独自のごみ出しの仕組みが構築された。

取組の目的

- ごみ出しに困っている高齢者等の支援
- 見守り対象者の見守り
- 協力体制意識の構築
- 高齢化に伴う担い手不足の打開



(現自治会長・仕組みを構築した前自治会長)

これまでの経緯

年・月	出来事
平成27年頃	自治会内で火事が発生、炊き出しを行う等自治会が一体となる
	住民同士のつながりについて住民の意識が変わる 見守りについて見守り役の意識が変わる
	ふれあい・いきいきサロンの参加者が増える
	ごみ出しに困っている人がいる事に気付く 何か出来ないか、自治会長を筆頭に見守り役で話し合う
令和2年頃	花を植える為に使用していた資金を、ごみ出し支援に使用することが決定する
	自治会独自のごみ出しの仕組みが開始される
	要支援者がふれあい・いきいきサロンに参加するようになる等、地域のつながりを持つ

活動の概要

- 自治会により委託された2名の方により、高齢者等自分の足でゴミステーションまで行くことが困難な方々のごみ出し支援が行われている。
- 支援者2名は軽トラックを所有していて、毎月第3日曜日の資源ごみ日、4～5名の高齢独居世帯の資源ごみの回収に回る。
- 支援は有償とし、自治会より2名の方へ料金が支払われる仕組みとなっている。
- 対象者宅を回る際、見守りも兼ねている。

[活動に関わった人・団体]

- 自治会長
- 民生委員
- 健やか支援アドバイザー
- サロン代表
- 地域住民

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

[SCとしての役割]

- 自治会との連携
- 自治会組織の可視化
- 他自治会への取り組み紹介(協議体)
- 個別相談対応(生活支援事業所マッチング)
(ごみ出し支援を受けている方々)

[行政担当者としての役割]

- SCの個人相談
- 健康教育や健康相談
- SCとの定期的な情報交換
- つながり発表会での活動周知
- SCの活動フォロー、内容把握
- 自治会ニーズ把握



現時点での到達点(効果・課題など)

[効果]

- ごみ出しに困っていた人の心配事解消
- 要支援者宅を回る際の見守り
- 地域活動への参加者増
- 住民の意識改革
- 個別相談の入口

[課題]

- 後継者不足

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

21 喜入自治会 見守り隊

薩摩川内市 高齢・介護福祉課

地域の概要



薩摩川内市、JR川内駅から東方
向の住宅地。地域内にはスーパーや
コンビニ、高校などあり。450世帯
の住宅地で薩摩川内市では最大規模。
65歳以上が170名で高齢化率は18%
程度。



取組のきっかけ

他自治体の見守りについての研修に行き、自分たちにも必要な見守り活動があるのではないかと、自治会内で意見交換を行い、80歳以上の高齢者にアンケートをとり、支え合いマップを作成することで自治会内の見守りや、移送支援についてのニーズがわかった。



取組の目的

- 自治会内の見守り
- 有償ボランティア

これまでの経緯

年・月	出来事
平成28年 6月14日	さつま町（白男川地区）見守りについての視察研修
平成28年 6月16日	自治会内で意見交換し ・支え合いマップを実施 ・アンケートを実施（80歳以上単身者39名）
平成28年 冬	アンケートと支え合いマップから見えてきたこと話し合い ・高齢者の困りごと ・見守りが必要な人 ・見守りを行える人 それぞれのニーズを把握し、マッチングをしていく
平成29年	支え合いをリスト化し、報告書の作成した 支え合い（無償・有償ボランティア）スタート 見守り活動を開始
毎年	マップの更新をし、その都度見守りについて協議

活動の概要

- 見守り活動 訪問活動や日常生活の自然な見守り活動
有償ボランティア サロン送迎往復 1人300円
買い物・病院の送迎 1回600円 1日前に予約
見守りのネットワーク化
・高齢者クラブ、サロンの会、女性の会 LINEグループを作成し情報共有
・自治会長、民生委員、アドバイザー、社協、他 防災のためのLINEグループを作成



サロン送迎3名 久しぶりの利用となりました



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- | | |
|--|--|
| <p>〔行政担当者としての役割〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自治会ニーズの把握 ●SCの活動のフォロー ●自治会活動の見える化、見せる化 | <p>〔SCとしての役割〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アンケート調査や支え合いマップのフォロー ●地域住民の方々の思いをかたちにできるようにつなぎ ●自治会としての取り組みを見える化、見せる化 ●ネットワークを構築 |
|--|--|



現時点での到達点（効果・課題など）

- | | |
|---|--|
| <p>〔効果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自治会内の見守り強化 ●住民同士の声掛けが増え、交流が密に ●自治会内のニーズを自分たちで解決していこうという考え ●協議体として機能 | <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●災害避難時の要援護について ●ICTについて ●見守り人員の高齢化について |
|---|--|

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

地域の概要



田崎自治会は、薩摩川内市の田崎町と永利町を含む地域である。昭和50年代までは、150世帯、人口500人程度の農村でしたが、昭和60年代になると宅地開発が進み、現在では約800世帯、人口2,000人を超える人口急増地帯となった。

取組のきっかけ

高齢者クラブ代表の「自分たちの地域のことは自分たちで考えよう」という思いから、「見守り会議」は立ち上がった。見守り会議の際に「住民支え合いマップ」を取り入れる事で専門職とも連携し、より見守り体制の充実を図る事を目指している。

取組の目的

- 見守りネットワークの構築
- 高齢者のひきこもり予防
- 生活支援の体制整備
- 専門機関との連携

これまでの経緯

年・月	出来事
令和4年10月	お互い様の関係をつくり見守り見守られの関係を作っていきたい 見守りマップ（支え合いマップ）を鶴亀会（高齢者クラブ）の集まりの場で作成
	高齢者クラブだけで考えるのではなく自治会として考えていく仕組みをつくる
令和5年5月	見守りマップを「見守り会議」として継続し情報を共有
	田崎自治会の仕組みづくりの表を作成しみんなで共有「選択していける場所」
令和5年12月	見守り会議で、「生活支援」や「ボランティア」についてみんなで勉強
令和6年	見守り会議を年に2回開催していく

活動の概要

田崎自治会では、半年に1回「見守り会議」を開催、その場で「住民支え合いマップ」の更新を行っている。現在、その場から生活支援体制の構築に向け活動を展開している。



[参加者]
民生委員
自治会長
健やか支援アドバイザー
サロン代表者
高齢者クラブ代表
地域住民

自治会の住民の生活支援の相談に対し、見守り会議の場で支援体制を話し合う。民生委員を中心とした有志の方々で対応、今後は自治会独自のボランティア団体の立ち上げも視野に入れている。

事例における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- SCと定期的な情報共有
- SCの活動のフォロー
- 自治会のニーズ把握

〔SCとしての役割〕

- 住民支え合いマップ時の聴取と記録
- マップから把握した地域課題解決に向けた取り組みの提案とマッチング
- 自治会独自のボランティア団体の立ち上げと継続に向けた調整

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- サロンの参加者が増えている
- 地域行事へ男性の参加者が増えている
- 地域住民同士、自分たちの地域について考えている
- 個別課題に対し、自治会内の助け合いで対応できている

